

第22回日本マンドリン独奏コンクール レポート

去る8月22日、かつしかシンフォニーヒルズ アイリスホール（東京都葛飾区）にて以下の通り、第22回日本マンドリン独奏コンクールの第2次予選及び本選が行われました。

開催日： 2010年8月22日（日） 12：00～19：30頃

会場： かつしかシンフォニーヒルズ・アイリスホール

入場料： 一般 3,000円 学生 1,000円

演奏曲

第二次予選： 課題曲A

（ビツァリアー - カルロ・ムニエル作曲、ピアノ伴奏付）

本選： 課題曲B

（夕べの想い - 中野二郎作曲、無伴奏）

自由曲

審査員（敬称略、五十音順）

木下正紀、久保田孝、國土潤一、小松一彦、高橋和彦、高橋五郎、藤掛廣幸

表彰： 1位賞金 20万円 2位賞金 10万円 3位賞金 5万円

会場は立見が出るほどの盛況ぶりで、外の暑さに負けにくいほどの熱気の中、全国7つの地区・海外ブロック、計8ブロックの予選を勝ち抜いた16名により、熱い戦いが繰り広げられました。第二次予選出場者は以下のとおり。

予選地区 第二次予選出場者

北海道 本田和也

東北 佐藤優子

関東 高柳未来、青山 涼、泊り美穂、高津良幸

中部 友成貴司、久保田貴美、原田 優

関西 和泉 亨、湯川麻美、塚本太郎

中国 林 真衣、松永恵利香

九州 中島久雄

海外 児嶋絢子

日本マンドリン連盟関東支部 支部長の齊藤聡子氏の挨拶を皮切りに、審査員6名の紹介が行われ、早速第2次予選の演奏が始まりました。

第2次予選では、全員が課題曲A「ビツァリアー」（カルロ・ムニエル作曲）を演奏。

16名の奏者は、個々が非常に高い音楽性を持っており、ミス一つが大きな命取りになりかねない、という印象を受けました。

第二次予選の結果は次の通りです。

第二次予選審査結果 (25点満点法)

出演順	審査委員 出場者	審査委員						合計点	平均	入選条件	本選へ推薦
		木下正紀	久保田孝	國土潤一	高橋和彦	高橋五郎	藤掛廣幸				
1	友成貴司	20	*17	17	17	20	*22	74	18.5	○	
2	青山 涼	21	*20	22	21	21	*23	85	21.3	○	◎
3	林 真衣	20	*14	15	16	*20	16	67	16.8		
4	高柳未来	21	NA	19	*17	19	*21	59	19.7	○	◎
5	中島久雄	19	*13	16	NA	*21	19	54	18.0	○	
6	久保田貴美	20	*12	16	16	*21	18	70	17.5		
7	児嶋絢子	22	*16	20	17	21	*24	80	20.0	○	◎
8	湯川麻美	NA	18	17	*15	*21	17	52	17.3		
9	松永恵利香	20	18	*17	19	19	*24	76	19.0	○	
10	原田 優	19	17	16	*15	19	*20	71	17.8		
11	和泉 亨	23	22	23	24	*20	*25	92	23.0	○	◎
12	高津良幸	19	*17	19	20	21	*22	79	19.8	○	◎
13	本田和也	18	*15	18	19	20	*20	75	18.8	○	
14	佐藤優子	18	17	17	*15	*20	19	71	17.8		
15	泊り美穂	22	20	*17	19	21	*23	82	20.5	○	◎
16	塚本太郎	*21	*16	17	16	21	18	72	18.0	○	

*1 合計点は最高点、最低点各1票（*を付けた点数）を除いて加算したもの。最高点または最低点が複数あるときは1票のみ除いて加算する。
 *2 点数欄の NA は審査委員の直接の生徒であるために採点しなかったことを示す。
 *3 平均点18点以上を得た者のうち、上位より6名以内を入選とする。

本選には6名が出場し、課題曲B「夕べの想い」（中野 二郎作曲）と自由曲を演奏しました。

本選出場者の印象を、出場順にご紹介したいと思います。

1番目は青山 涼さん。

予選では冒頭の激しい音色が印象的でしたが、本選「夕べの想い」の冒頭では繊細な楽想をよくとらえ、予選とは別人を思わせるような音色でした。

自由曲は非常に技巧的な曲でしたが、完璧なテクニックに終始魅了されました。

2番目の高津 良幸さんは、予選でも繊細な表現が印象的でしたが、「夕べの想い」では彼の表現力を存分に堪能することができ、特に最後の和音が非常に繊細で、印象に残りました。自由曲では力強さも加わり、メリハリのある演奏を見せてくださいました。

3番目は泊り 美穂さん。

予選では安定感のある演奏でしたが、本選ではそれに加え、表現力の幅広さが印象的でした。自由曲では、カラーチェの速いテンポもよくコントロールできており、再現部でよくうたっていたのが心に残りました。

4番目の和泉 亨さんは、予選でも若々しく、かつ粒のそろった演奏を見せてくださいました。本選でも予選と同じく、安定した演奏でしたが、それに加え、情熱的な音楽の表現をされていて、非常に魅せられました。

特に自由曲のカデンツァ部分には、音楽の可能性を感じました。

5番目の児嶋 絢子さんは、予選から本選を通して、豊かな表現、音色が印象的でした。

自由曲「月と山姥」は、今回のコンクールで現代曲が少なかった中での演奏でしたが、この曲を確実に理解し表現しようとしている姿勢がよく感じられました。

最後に、6番目の高柳 未来さん。

予選から若々しく、しっかりとした表現が印象的でした。

本選ではただ一人無伴奏での出場でしたが、それを全く感じさせない、堂々とした迫力かつメリハリのある、安定した演奏を聴かせてくださいました。

その後本選審査中には、前回1位の丸橋 弘雅さんによる演奏がありました。

丸橋さんによって、チャルダシュー（モンティ作曲）ほか の演奏がありました。

審査結果は以下の通りです。

第22回日本マンドリン独奏コンクール

本 選 審 査 結 果 (25点満点法)

出演順	審査委員 出場者	審査委員						合計点 ※	平均	等 位
		木下正紀	久保田孝	國土潤一	高橋和彦	高橋五郎	藤掛廣幸			
1	青山 涼	22	23	23	*20	23	*24	91	22.8	2
2	高津良幸	20	18	22	*15	*23	20	80	20.0	
3	泊り美穂	21	21	21	*19	22	*23	85	21.3	3
4	和泉 亨	*24	23	*21	22	24	24	93	23.3	1
5	児嶋絢子	*23	21	20	*18	22	22	85	21.3	次
6	高柳未来	*21	NA	19	*16	21	21	61	20.3	

*1 合計点は最高点、最低点各1票（*を付けた点数）を除いて加算したもの。（※）
 最高点または最低点が複数票あるときは1票のみ除いて加算する。
 *2 点数欄の NA は審査委員の直接の生徒であるために採点しなかったことを示す。

表彰に続き、審査委員長の藤掛 廣幸氏により総評がありました。

「入賞した方、すばらしい演奏をありがとうございました。

ここまで予選を勝ち抜いてきた方も、そうでない方も含め、出場者全員の演奏力、表現力が花開いた結果、今回のようなすばらしいコンクールになったと思います。入賞した方はこれを機に、今後ますますご活躍ください。

最後に本日暖かい拍手をくださった観客の皆さんに、心から感謝したいと思います。」

また総評の中で、今回のコンクールに際して以下のような指摘がありました。

- ・ 調弦にもう少し気を遣うこと
- ・ 課題曲A「ビッツァリア」は、もう少し自由に表現してもよかったのではないか
- ・ 楽器を扱うテクニック（演奏技術）と、
 楽譜をどう読み、どう表現するか（音楽性）双方のバランスを考え、磨くこと
- ・ トレモロの際、小指で押さえている人がいるが、共鳴板に触れる恐れがあるので、注意すること
- ・ 楽器のサウンドホールをまっすぐ向けること

冒頭でも述べましたが、今回は多くの観客に見守られ、

出場者も自分の持つ力を十分発揮出来たように思います。

運営の方々のご尽力により、全体を通してプログラムもほぼ時間通り進み、聴衆として十分楽しめたコンクールでありました。

レポート：アンドウマユコ（作曲家）

（協力：日本マンドリン連盟）